

みやぎの 林業だより



表紙写真

本県では、多くの植樹イベント等が開催されており、御参加いただいた皆様の御厚意によって宮城の森林が支えられています。

<写真上>

みやぎハットの森植樹祭(p8)

<写真下>

栗原市ふるさと復興植樹活動(p12)

平成27年3月20日
発行

205号

目次	【話 題】◎地域の木質バイオマス資源を活用する大崎森林組合の取組…………… 2
	◎東松島市工務店協同組合による木造災害公営住宅の整備…………… 2
	◎オール登米市による木造災害公営住宅が全棟完成！…………… 3
	◎平成26年度農林水産物品評会…………… 3
	◎原木しいたけ(露地栽培)出荷制限の早期解除に向けて…………… 4
	・仙台管内における取組
	・登米管内における取組
	◎ハタケシメジの生産及び販売拡大に向けて…………… 5
	◎「秋の栗原、大自然とおいしい食材生産現場見学会」を開催しました… 5
	◎日頃の活動成果を披露「平成26年度林業普及指導員 東北・北海道ブロックシンポジウム」本県にて開催！…………… 6
	◎地域林業をけん引する!! トータル・コーディネーターを認定…………… 6
	◎林業労働災害防止に係る巡回指導について…………… 7
	◎森林・山村の多面的機能発揮に向けた活動が増加…………… 7
	◎「みやぎハットの森」植樹祭を開催しました！…………… 8
	◎森林の適切な更新を進めていきましょう…………… 8
◎「大曲浜海岸防災林・防潮堤復旧工事」安全祈願式が開催されました… 9	
◎林野火災跡地の復旧に向けて ～諏訪部防災林造成事業が完了しました～…………… 9	
◎春の山火事に気をつけましょう！…………… 10	
◎松島湾のマツ林再生中～植栽困難地で再生を図る～…………… 10	
◎クマによる皮剥ぎ被害対策…………… 11	
【シリーズ】◎研究情報コーナー ・園芸用プランターを用いたオオイチョウタケの栽培に挑む!!…………… 11	
【シリーズ】◎森林管理署情報 ・栗原市ふるさと復興植樹活動…………… 12	
・被災国有林による防災貢献について…………… 12	
【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13	

地域の木質バイオマス 資源を活用する 大崎森林組合の取組

大崎森林組合においては、平成二十五年度(繰越)森林整備加速化・林業再生事業(木質バイオマス利用施設等整備)を活用して遊休(休眠)施設である製材所施設(旧鳴子森林組合内)を改築し、低コストな木質チップの製造と管内施設との連携を計画しました。

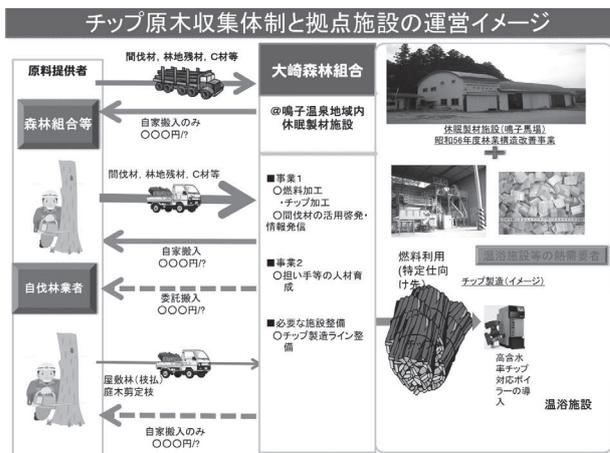
大崎市内に豊富にある木質資源を有効活用し、大崎市田尻地区にある日帰り温泉施設「さくらの湯」の木質チップポイラー(スイス製)に提供することによって、灯油使用量の低減と温室効果ガス等の削減を推進するものです。

【チップ生産・供給の概要】

○生産見込み 七五〇〇m³/年
うち「さくらの湯」
六五〇〇m³/年

○原木供給体制(計画)

森林組合 二〇〇〇m³/年
自伐林家等 七〇〇m³/年
※加護坊温泉「さくらの湯」とは五年間の使用契約保証協定を締結



【稼働計画】

平成二十七年一月下旬
操業時の騒音及び振動を測定調査
平成二十七年二月中旬
チップ製造施設開所式
平成二十七年二月下旬
供給先ポイラー施設完成
平成二十七年三月十日(火)
さくらの湯木質ポイラー運転開始
平成二十七年四月
本格的なチップ供給開始
(北部地方振興事務所)

東松島市工務店協同組合による 木造災害公営住宅の整備

東松島市では、買取方式による木造災害公営住宅九十一戸の建設が進んでいます。平成二十六年三月に締結された東松島市との整備協定に基づき、地元工務店や設計事務所からなる東松島市工務店協同組合が設計・施工を担当しています。

間取りにより二階建て、平屋建ての各タイプがあり、牛網地区二十九戸、矢本西地区四十戸、宮戸(月浜、室浜、大浜)地区二十二戸が協同組合の組合員である地元の工務店により施工中です。住宅は平成二十七年三月に完成予定で、外構工事などを実施の後、同年七月に東松島



木造災害公営住宅(牛網地区)
木工事が終わり内装工事が進む

市に引き渡される予定です。この災害公営住宅には、材料の一部に東松島市産材が使われています。災害公営住宅に地元産材を使用したいという市の意向により森林経営計画を策定し、工事に間に合うように平成二十六年九月から間伐を実施してきました。

搬出された間伐材は、協力製材工場や協同組合と協定を結んだ合板工場に搬入し、製材や合板にして公営住宅の材料の一部にしています。市産材が不足する柱や梁、下地合板には優良みやぎ材(県産材)を使用しており、建物全体としては、県産材と市産材を合わせて七十割以上を使用しています。



災害公営住宅向け市有林の間伐調査
(東松島市有林)
(東部地方振興事務所)

**オール登米市による
木造災害公営住宅が
全棟完成！**



上棟式(撒餅)



登米市産材をふんだんに活用

登米市木造災害公営住宅は、平成二十六年五月の第一期十棟に続き、十一月に第二期二十二棟の完成を迎え、完成を心待ち

にされていた被災者の方々、に旧年中に入居いただくことができませんでした。入居された皆様には、木の温もりにも包まれた新居で、久しぶりにゆとりとした新年を迎えることができたことと思います。建築を

(東部地方振興事務所
登米地域事務所)



木造災害公営住宅

担当したのは「登米市木造災害公営住宅建設推進協議会」です。林業・木材・製材・建築の各業界が力を合わせオール登米市として取り組み、発注元である登米市役所との連携による買取方式の導入や、木材使用量の八十割以上を優良な登米市産材とするなど、森林豊かな登米市ならではの全三十二棟を完成させ、震災からの復興に大きな役割を果たしました。その功績が評価され、昨年十月、「県産材利用促進功労者」として県知事から表彰(本誌第二〇四号参照)されました。

**平成二十六年
農林水産物品評会**

みやぎまるごとフェスティバルの一環として、昨年十月十七日、農林水産物品評会が開催されました。この品評会は、生産者の生産意欲の高揚と生産技術の向上を目的とし、今年で六十六回目の開催となります。

原発事故後、県内の生産現場では、県外から汚染されていない生産資材を購入し、栽培工程管理により、安全なしいたけの生産に取り組んでいます。今回は、県内各地域から選りすぐりのしいたけ三十三点、くり一点の出品がありました。

当品評会で、農林水産大臣賞を受賞した角田市の遠藤さんは、原発事故後、風評被害が続く県南地域から、苦難を乗り越えての受賞であり、生産に対する常に前向きな姿勢と、長年培った原木しいたけ栽培技術が高く評価されたものです。

なお、出品された生しいたけは、いずれも肉厚で品質の優良なものが多く、生産者の皆様の日頃の御努力がうかがえる内容でした。

入賞者は、次のとおりです。おめでとーございませう。

農林水産大臣賞

角田市 遠藤 敏行 氏

林野庁長官賞

大和町 浅井 松子 氏

食用茸協同組合長賞

大崎市 佐々木 郭 氏

森林組合連合会長賞

大和町 早坂 誠吉 氏

林業振興協会会長賞

登米市 高橋 龍朗 氏

特用林産振興会長賞

大和町 (農)七ツ森菌床椎茸生産組合



農林水産大臣賞を受賞した角田市の遠藤敏行さん御夫妻

(林業振興課地域林業振興班)

原木しいたけ(露地栽培)出荷制限の早期解除に向けて

～仙台管内における取組～

仙台管内では、平成二十四年四月二十七日に仙台市及び名取市で原木しいたけ(露地栽培)の出荷制限指示が出されて以降、現在も管内五市町村において出荷制限が続いています。こうした状況を打開し、一日も早い出荷再開を実現するため、当所では生産者やJA、市町村等の関係者と連携し、制限解除に向けた様々な取組を進めています。

平成二十六年八月六日には、林業技術総合センター研修館において、関係市町村や生産者等(二十名)に対して研修会を開催し、制限解除に向けた流れやポイント、放射性物質低減化の取組事例について情報提供を行いました。



研修会における説明状況

九月十八日には、仙台農協椎茸生産組合主催の勉強会において、JA職員や組合員(十四名)

と、取組状況や課題等について意見交換を行いました。

十一月十三日には、先行して取組を進めている生産者や市町村を対象とした解除事務勉強会を開催し、具体的な手続きの進め方等を説明しました。

また、研修会等の開催と併せて、生産者に対する現場指導を行うとともに、関係機関との調整を進めました。

これらの取組の結果、管内の生産者二十四名のうち十三名が汚染ほだ木の撤去やほだ場の低減化作業、ほだ木及び子実体の測定等、再開に向けた作業に取り組み始めており、うち三名(仙台市二名、大和町一名)が年度内に国から出荷制限解除指示が出る見込みとなっています。



生産者の取組を個別に支援

今年二月二日には、仙台市において生産推進協議会が設立され、また、二月下旬には大和町でも協議会組織が設立される予定となっており、今後も、生産者等と連携しながら、早期解除に向

けた取組を進めてまいります。

(仙台地方振興事務所)

～登米管内における取組～

二月三日(火)、登米市東和町米川地内において、生産再開希望者を対象とした研修会を開催しました。

登米市は、昨年八月に県内でいち早く出荷制限が一部解除されましたが、今回、生産を再開する農林家を増やすために行つたもので、生産者やJA職員、登米市職員など十三人が参加しました。

最初に、放射性物質を低減した栽培管理について説明した後、本年一月に国へ出荷制限の解除を申請したばかりの同市の芳賀裕氏を講師に、原木の管理から植菌作業・伏せ込みなど一連の作業や新設した人工ほだ場について説明していただきました。芳賀氏からは「ほだ木は、地面から約二十センチ離すなど、まずは土との接触を避けることが重要」との指摘があったほか、「原木さえしっかりしていれば、解除は難しくないはず」と体験を踏まえて説明していただきました。

その後、登米市の支援事業について市職員から、きのこ原木の補助事業等について事務所から説明を行いました。

参加者からは「補助事業の手続きは難しいのか」「人工ほだ場の設置を検討したい」「出荷制限解除の単位である」一ロツトとは最低何本か?」「補助事業を活用し、きのこ原木を購入したい」といった前向きな意見や質問が出されました。

今後も市、JA等と連携し、産地の再生に向け、生産再開希望者全員の出荷制限解除を目指して支援を続けてまいります。



研修会の状況



(東部地方振興事務所
登米地域事務所)

ハタケシメジの生産及び販売拡大に向けて

今年度、北部地方振興事務所では、地方振興部と林業振興部が連携して、「おおさき山の幸販路拡大支援事業」を展開しており、その一環として、宮城県が開発したハタケシメジ（みやぎLD二号）の生産及び販売の拡大に取り組んできました。

生産拡大では、大崎市の「一票なめこ生産組合」、加美町の「山の幸研究会」及び「下新田えのき茸生産組合」に菌床を支給して、実証栽培に取り組んでいただき、約一七〇袋のハタケシメジが生産されました。また、林業技術総合センターが主体となり、中新田きのこセンター等と品質や生産量の安定した菌床生産体制の構築を進めています。



販売促進イベントの様子
(フードマーケットフジサキ寺岡店)

販売促進イベントは、昨年十二月七日(日)に加美町い土産セ

ンター、二十三日(祝日)に仙台市泉区寺岡のフードマーケットフジサキにおいて開催しました。イベントでは、ハタケシメジを使った「きのこ汁」と「おこわ」の試食を提供し、実際にその美味しさを味わっていただいたところ、大好評であり、フジサキのイベントでは、用意したハタケシメジ(三五〇円、二十パック)が完売しました。



ハタケシメジ(ふうた) レシピ集を添えて販売しました。

ハタケシメジは、シャキシャキとした食感が特徴で、和食はもとより、洋食にもよく合うきのこです。また、放射性物質の影響も受けにくいことから、来年度においても、更なる生産及び販売の拡大に向け、当事務所を中心に活動として、取り組んでいくこととしております。

(北部地方振興事務所)

「秋の栗原、大自然とおいしい食材生産現場見学会」を開催しました

栗原地域は、平成二十年の岩手・宮城内陸地震、更にその三年後に発生した東日本大震災によって、二度にわたり大きな被害を被りました。

栗原地域事務所では、この震災を乗り越えようと復旧・復興に向けて頑張っている栗原の人達を支援するとともに、内陸地震の震源となった栗駒山の現在の状況を広く知っていただくことを目的として、平成二十四年度から年に一度、一般の参加者を募り初夏の栗駒山麓や築館のきのこ生産施設を巡るバスツアーを開催してきました。

三回目となる今年度は、紅葉の季節のバスツアーを企画し、十月十八日、栗原市内や仙台方面からの公募による参加者十二名を対象に、「秋の栗原、大自然」と題して、栗駒耕英地区の「会」と題して、栗駒耕英地区の山林崩壊地や築館のなめこ生産施設等を見学していただきました。

見学会当日の耕英地区は紅葉が真っ盛りで天候にも恵まれた

ことから、岩手・宮城内陸地震の大規模地すべりで崩壊した山林及び復旧工事の施工状況を、荒砥沢ダムの湖畔等から一望することができました。

また、栗原市築館の「築館なめこ生産組合」では、施設内でのなめこ栽培の方法を、放射能汚染を防ぐための対策も交えて説明いただくとともに、組合の御協力により、参加者によるなめこの収穫体験も行われました。



参加者がなめこの収穫を体験

き、元気を取り戻すため、栗原の森林・林業をPRすることができました。

(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)

日頃の活動成果を披露
 平成二十六年 林業普及指導員
 東北・北海道ブロックシンポジウム
 本県にて開催！

林野庁の主催、本県の運営による「林業普及指導員東北・北海道ブロックシンポジウム」が、仙台市内のパレス宮城野をメイン会場に六十名の参加を得て、九月二十五日と二十六日の二日間にわたって開催されました。本シンポジウムは、東北六県及び北海道の林業普及指導員が日頃の活動の成果を発表し、意見交換等を通じて今後の普及指導活動の推進に活かすことを目的とするもので、本県での開催は十一年ぶりとなりました。本年度は「林業普及指導事業における森林総合監理士等の活動の取組」をテーマに、各道県から選ばれた代表による発表が行われました。最優秀賞には福島県の佐川大三さんが選ばれ、十二月に東京で開催された全国シンポジウムでは、ブロック代表として発表を行いました。意見交換会では、林野庁による森林総合監理士や林業普及指導員関係の情報提供を基に、

国・県を問わず活動で抱える問題点等について、熱い意見が交わされました。また、現地視察では、仙台森林管理署が取り組んでいる海岸防災林再生植樹地「社会貢献の森」や岩沼市が復興のシンボルとして整備している「千年希望の丘植樹地」を視察したほか、「海岸林再生へ向けたコンテナ苗の活用」について、県農林種苗農業協同組合長から講話を頂きました。最後に参加者一同、被災地の一日も早い復興を願って、盛会裡にシンポジウムを終了しました。



熱気に包まれる会場

(林業技術総合センター
普及指導チーム)

地域林業をけん引する!!
 トータル・コーディネーター
 を認定

宮城県では、平成二十年度から間伐等の事業地の集約化により事業量を確保し、木材の販売戦略をも立案できる経営感覚に長けた次世代リーダー「トータル・コーディネーター」の育成に取り組んでまいりました。



施業団地の目標設定を演習中の受講生たち

今年度は、研修生十名が七月から一月までの七箇月、延べ十二日間にわたり技能と知識を習得しました。

研修は、「集約化施業」、「間伐と作業システム」、「森林作業道の開設」、「経営と木材の有利販売」の四部門で広範多岐に渡り

ます。

また、講義や現場研修では、提案型集約化施業に先進的に取り組まれている秋田県雄勝広域森林組合の担当課長、森林作業道作設に熟練されている宮城県森林組合連合会の作業統括班長などを講師にお招きし、実践的な研修に重きを置きました。

当研修は今年度で終了しますが、これまでに養成された六十名のトータル・コーディネーターが、研修で培ったスキルを存分に発揮し、地域林業のけん引役として活躍されることを期待しております。



認定式後の記念撮影

(林業技術総合センター
普及指導チーム)

林業労働災害防止に係る 巡回指導について

林業労働災害の発生割合は全ての産業の中で最も高く、平成二十六年の林業労働災害のうち死亡災害は全国で四十四件発生しており、前年の三十九件を上回りました。また、管内では二件の重大事故が発生しており、うち一件は死亡事故でした。



玉切り作業

林業事業体では、災害防止のため様々な取組を実施していますが、このような状況を踏まえ、当事務所では、作業別の安全作業チェックリストを作成し、平成二十六年十二月十六日

から三日間、六事業体に対し巡回指導を実施しました。

現場では、間伐作業のほか、高台移転や三陸道開設に係る皆伐作業等が実施されています。各事業体では、労働災害発生防止対策として、現場に入る際の危険予知活動や、ヒヤリハット事例を共有するためのミーティングを実施するなどの取組が行われていることを確認しました。

当事務所では、今後も継続的に労働災害を防止するための活動を実施することとしています。



はい積作業

(気仙沼地方振興事務所)

森林・山村の多面的機能 発揮に向けた活動が増加

林野庁が平成二十五年度から始めた「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」は、森林所有者の森林への関心や活動を取り戻し、民間団体の協力も得て、里山林の保全管理や資源利用の活動を促すねらいがあります。

県では、交付金事業の推進に向け地域協議会(事務局は県緑化推進委員会)と連携し取り組んできた結果、初年度(平成二十五年)度)十四団体を皮切りに、今年度は三十団体まで取組団体が増加しています。

地域協議会では、森林作業の基本の理解と、より安全な活動の実施に向け、一月二十七日、仙台市内で研修会を開催し、平日にもかかわらず十九団体四十七名の参加がありました。

第一部「安全講習会」では、林業安全管理指導専門家の安部様から、チェーンソーや刈払機による事故事例が後を絶たない点や、かかり木処理の危険性、特に里山では一般者が入林する可能性が高いため、かかり木になつてしまった場合、放置せず

に適切に対処する必要があるなどの指導がありました。

また、林業・木材製造業労働災害防止協会宮城県支部の木幡様からは、法令に基づく林業作業に必要な講習等の解説と、安全な作業を行うためにも積極的な受講が望ましいとの呼びかけがありました。

第二部「情報交換会」では、五団体から活動状況の紹介があり、意見や提案、他地域での取組を今後のヒントとして、同様の課題への対応や他団体との連携推進などにおいて大いに役立つようです。

こうした活動は今後益々充実するものと思われれます。県では、地域協議会と今後も緊密に連携し、各地の取組を支援してまいります。



第一部「安全講習会」



第二部「情報交換会」

(林業振興課林業基盤整備班)

みやぎバットの森

植樹祭を 開催しました!



宮城県では、平成十七年にプロ野球チーム「東北楽天ゴールデンイーグルス」が誕生したのを契機に、楽天野球団の活躍及び地域に密着した野球文化並びにみどりの文化の末永い発展を願い、県内各地において、地域住民や子供達との協働により、バットの材料となるアオダモを主とした広葉樹の森づくりに取り組んでいます。

十年目を迎える今年度は、大崎市と公益社団法人宮城県緑化推進委員会との共催により、十一月九日に、大崎市内の少年野球チームを招待し、大崎市岩出山字木通沢地内の市有林において、植樹祭を開催しました。

当日は、楽天野球団の井上・川岸両ジュニアコーチや、毎年、苗木を提供いただいている仙台トヨペット株式会社をはじめ、この取組に賛同し協力を頂いている企業の皆様など、総勢約一七〇人の参加の下、市有林〇・一畝にアオダモ及びヤマザクラ合計一五〇本を植樹しました。

その後、楽天野球団主催の野球教室が開催され、地元の野球少年達は将来のプロ野球選手を目指し、ジュニアコーチから熱心に指導を受け白球を追いかけました。

今回の植樹祭では、これらの取組を通じて、地域と球団との交流が深まるとともに、地域の協働による森づくりへの関心を高めることができました。



参加者全員で記念撮影



左から井上コーチ・川岸コーチ

(自然保護課みどり保全班)

森林の適切な更新を進めていきたいと思います

本県の森林は、人工林の約八割が収穫可能な時期を迎えるなど、本格的な収穫の段階に入っています。しかしながら、林業経営の悪化等に伴い、長伐期化が図られ主伐が進まない一方で、主伐が行われたとしても、植栽が行われない森林が依然多く、木材生産適地においてすら再造林実施率は五割を超える程度にすぎません。

このまま植栽による森林の更新が進まないことは、森林の極相化に伴う生態系の安定性上良い面もありますが、高齢化による成長量の低下により、二酸化炭素吸収機能が低下するといった負の面も懸念されます。また、主伐が行われ、雑木による天然更新が行われたとしても、成長のより早いスギ等の植栽による更新が行われなければ、二酸化炭素吸収機能だけでなく水源かん養等の公益的機能全般の回復が遅れるとともに、何よりも将来の県産材資源が枯渇し、これまで続いてきた林業活動自体が途絶えてしまうこととなります。

さらに、本県の林業・木材産業の復興に向け、県産材需要に応えていくために、間伐だけでなく主伐による県産材原木の供給も重要になってくると予想されますが、皆伐を中心とした主伐の急激な推進は、森林の公益的機能の一次的な低下を広範囲に渡って引き起こすこととなり、下流域への土砂流出等、県民生活への悪影響を引き起こすことが懸念されます。

これらの課題を解決するため、当課としても、いかに環境に配慮しながら森林の更新を推進していくか真剣に考えなければならぬと認識しており、このため県の施策の実現に向けて、関係者の皆様には、御理解と御協力を頂きますようお願い申し上げます。



(森林整備課森林育成班)

「大曲浜海岸防災林・防潮堤復旧工事」安全祈願式が開催されました

本県沿岸部の海岸防災林は、東日本大震災の津波に対し、背後地の津波被害を軽減するなど一定の効果を発揮しながらも、約千四百鈔にわたる甚大な被害を受けました。

本県では被災した治山防潮堤の復旧とともに、海岸防災林の早期再生を目指しています。この度、東松島市大曲浜の被災した防潮堤の復旧と海岸防災林の基盤盛土造成について、工事が本格化することとなったことから、一月二十二日に受注者主催による全四工区合同の安全祈願式が開催されました。

安全祈願式では、東松島市の阿部秀保市長、県議会の渥美巖副議長、県農林水産部の吉田祐幸部長及び工事関係者の代表が玉串奉奠を行い、参加者全員で



吉田部長あいさつ

安全に工事が進められることを祈願しました。

式典後の挨拶で、吉田祐幸部長は、「安全確保に万全を期して近隣の生活環境に配慮しながら立派な海岸防災林・防潮堤を完成させてほしい」と呼びかけました。

工事概要説明では、東部地方振興事務所の佐藤好昭副所長が、復旧延長六一三七鈔、そのうち防潮堤の復旧延長は五二七八鈔、堤高は震災前より一鈔高い七・二鈔となっており、背後地には四十三・一鈔に植生基盤造成のための盛土をし、マツノザイセンチュウ（松食い虫）抵抗性クロマツ約二十二万本を植栽することを説明しました。

（森林整備課治山班）



工事の概要

林野火災跡地の復旧に向けて 諏訪部防災林造成事業が完了しました

平成二十一年四月、県南の角田市諏訪部地区で過去四番目の規模となる林野火災が発生しました。

現地が保安林であることや、下流に人家、田畑及び農業用ため池等の保全対象が存在したことから、大河原地方振興事務所では平成二十一年度から治山事業により復旧を進めていきました。平成二十六年で無事に事業が完了しました。

さて、その事業の内容ですが、渓間工では宮城県内では珍しい木製床固工を採用しています。



木製床固工

県内産スギ材を使用した床固工は周囲の環境によくなじんでおり、非常によい景観となっています。また、植栽についても、焼失した林分はほとんどがスギでしたが、沢沿いにはスギ

ケヤキ混植、中腹にはヒノキ、尾根筋にはコナラを主体とした広葉樹、作業道沿いには並木状にヤマザクラを植えるなど、適地適木に配慮した樹種構成となりました。

また、下流ため池の管理者である地元土地改良区が主体となり、平成二十三年から地元小学生による植樹活動が毎年実施されるなど、地域活動の場としても活用されています。本事業終了後も、当地区では下刈り等の保育事業を継続して実施していく予定です。

植栽木の樹高は、現在はまだ数鈔程度の小さなものばかりですが、いつの日か、田畑やため池を潤す立派な森林に戻ることと思います。



小学生による植樹活動

（大河原地方振興事務所）

春の山火事に 気をつけましょう！

県では、三月一日から五月三十一日まで山火事予防運動を行う予定です。例年、春先は雨が少なく空気が乾燥し、一年のうちで最も山火事が発生しやすい時期となります。昨年、県内では四月から五月にかけて二十六件の山火事が発生し、約七畝の森林が焼損しました(図一)。

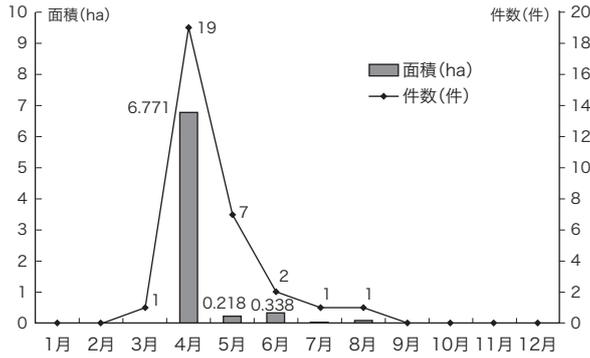


図1：平成26年月別発生件数

判明している原因では、例年農作業等によるたき火が最も多く、小さな不注意から発生して



平成27年山火事予防ポスター

いると考えられます(図二)。「乾燥しているときや風の強い日にはたき火をしない」「燃えやすい落ち葉や枯れ草の近くでたき火をしない」「たき火の場を離れず最後は消火を確認する」「たばこの吸い殻は投げ捨てない」など、一人一人が気をつけることで山火事を防ぐことができます。

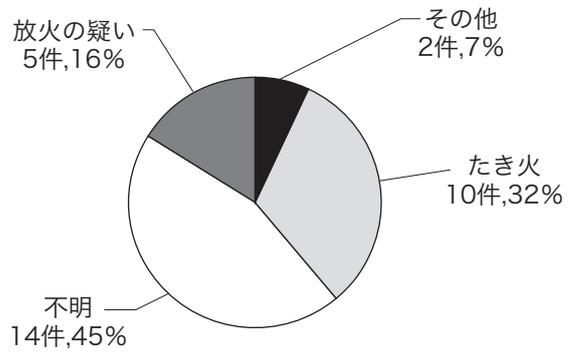


図2：原因別発生件数

松島湾のマツ林再生中 植栽困難地で再生を図る

山火事は一度発生すると消火が難しく、広範囲に及ぶこともあり、昨年は他県において百畝を超える山火事も発生しました。宮城の美しい森林を守るため、火の取扱いには十分気をつけましょう！
(森林整備課森林育成班)

県では、平成二十六年度から二十七年年度までの二年間、拡大する松くい虫被害から「特別名勝松島地域」の景観を形成するマツ林を守るため、みやぎ環境税を活用し、松くい虫被害やウミネコ等海鳥の糞害により植生荒廃が進む島しょ部において新たなマツ林の再生技術(植栽・定着)を検討し、観光船航路上にあり景観上優先的な対策が必要な島(布袋島・恵比寿島・大黒島・毘沙門島・伊勢島)を対象に、モデル施工及び新技術によるマツの植栽を進めています。今年度は、植生や土壌調査のほか、松くい虫抵抗性のマツを



マツ林の再生を進めていく布袋島(松島町)

(森林整備課森林育成班)

三百本程度植栽することとしています。現場では、海鳥の糞等の影響で土壌の酸性化が進んだり、表土そのものが流出するなど、植栽が困難な箇所が多くなっているため、海鳥対策や土壌改良等の工夫を凝らしながら作業を進めているところです。松島の魅力を高め、観光振興に貢献できるよう、そして、宮城の豊かな自然環境の象徴であり、本県が誇る地域固有の財産である「松島」の景観を次世代に引き継いでいけるよう、マツ林の再生に取り組んでまいります。

クマによる皮剥ぎ被害対策

近年、クマによるスギの皮剥ぎ被害が増加しており、当事務所管内でも大和町西部で顕著に見られるようになっていきます。

クマ剥ぎ被害は、完満な立木ほど発生率が高いと報告されており、適正な人工林管理を行い、いよいよ本格的な収穫期を迎えた熱心な森林所有者にとって、看過できない問題です。



被害により枯死したスギ

そこで当事務所では、昨年七月に大和町内の大規模森林所有者や町、森林組合などを対象に、クマ剥ぎ被害防止に効果がある資材設置を進める現地研修会を実施し、被害対策実践の重要性を啓発しました。当日は

全国で設置実績がある資材メーカー社員を講師に迎え、約二十人が参加しました。

その結果、参加者の中には、補助事業を活用して約十八畝のスギ人工林に約九〇〇〇枚の被害防止資材を設置するなど、早速、研修会の効果が現われ、地域に獣害対策への意識が一層高まったようです。



効果は5年以上



生分解性プラスチック使用で自然分解される素材

被害防止資材は一枚約四百円とまだ高価であることから、今回対策を行った林分を定点調査地として、より効果的で低コストな設置間隔や、密度に関するデータを収集し、多くの森林所有者が対策を進められるよう情報提供に努めてまいります。

(仙台地方振興事務所)

研究情報コーナー

園芸用プランターを用いたオオイチョウタケの栽培に挑む!!

オオイチョウタケは、八月から九月にかけてスギ林等で見かけることができる、白色の大型きのこです。柔らかな歯ごたえと濃厚な出汁がとれることから、地域によっては人気の高い食用きのことして親しまれています。

当センターではこれまで、スギ林内での野外栽培試験を実施し、数年にわたってきのこの発生を確認するなど、一定の成果を得ています。現在は、福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散による影響を考慮し、屋内で簡易栽培方法を研究しているところです。

栽培方法としては、当センター内で培養した菌床(菌の塊)をバーク堆肥(樹皮を発酵させた土壌改良材)と共にプランターに埋設し、直射日光の当たらない軒下や物置に設置します。高温や乾燥に注意しながら定期的に散水し、菌糸の伸長を促した結果、試験開始から一年半が経過した現在では、プラン

ター表面の大部分を菌糸が覆い尽くす状態になりました。

今後は、散水や温度管理によつてきのこの発生を促すほか、適切なプランターのサイズや菌床の埋設時期、きのこにとって良好な湿度の把握について研究を進めます。



スギ林内で収穫したオオイチョウタケ



プランターに広がる菌糸

(林業技術総合センター 地域支援部)

森林管理署情報

栗原市ふるさと復興植樹活動

昨年十月四日、宮城県栗原市栗駒沼倉深山岳国有林において、第五回栗原市復興ふるさと植樹活動が開催されました。

植樹活動が開催された深山岳国有林及び周囲の山林等は、平成二十年六月に発生した「岩手・宮城内陸地震」において甚大な被害に遭った地域で、植栽箇所は地震により大崩落を起こした荒砥沢ダムの上流部に位置しています。

本植樹活動は、被災前の動物たちが行き交う多様性のある豊かな森林を早期に再生することを目的に、仙台市のNPO法人「森林との共生を考える会」との共催により平成二十二年度から行われており、宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所、栗原市、栗駒の自然を守る会、耕英地区振興協議会の後援を頂いて、今年で五回目を迎えました。

当日は、県内各地から七十七名が参加者し、秋晴れの下、全て周辺の山から採取した山取苗及び実生から育てたブナ・ヤマ

モミジ・ミズナラなどの広葉樹苗木約二〇〇本を植樹しました。植栽箇所は、土砂崩壊復旧工事箇所跡地で粘土質の堅密土壌になっていたため、参加者たちは、全員額に汗しながら固い地面に鍬を振るっていました。植栽を終えた参加者からは「地面が固くて大変だったが、大きく育ってほしい」「一回目から参加しているが、少しづつ緑が濃くなっている」との意見も聞かれ、当署としても引き続き関係団体との連携を図りながら、本活動を更に充実したものにしよう取り組んでいきたいと考えています。



多くの方に参加いただきました

(宮城北部森林管理署)

被災国有林による防災貢献について

宮城北部森林管理署の管内の森林は、「岩手・宮城内陸地震」及び「東北地方太平洋沖地震」と、短期間のうちに二度の大地震に見舞われた唯一の国有林です。特に、平成二十年に発生した「岩手・宮城内陸地震」では、山腹崩壊、土石流、地すべり等の山地災害や河道閉塞が至るところで発生しました。この中には、荒砥沢のように国内最大級の地すべりも含まれています。こうした国有林には、治山工事等によって復旧した林地のほか、天然力を活用し自然の推移にゆだねる森林も多く残されています。

一般に、工事車両が往来し、危険な箇所も多い被災国有林は、署において入林制限をかけますが、災害を目的にできる箇所はほかにはないため、防災・研究等に限り入林を許可する場合があります。これまでに、復旧・復興工事のほか、災害研究、防災教育、報道など様々な分野の方が現地を訪れてきました。

昨年は、中国、台湾などの海

外行政関係者を招いたほか、国土交通省の緊急災害派遣隊研修や砂防学会での研究フィールドに活用され、延べ六〇〇名が現地を体感しました。また、本年三月に仙台市で開催される国連防災世界会議においては、現地見学等を通じて被災や復旧・復興状況を発信する予定です。国有林では、地域の安全・安心のために、引き続き治山工事などを進めていきながら、国内外での防災・減災につながるよう協力することとしております。



研修や研究のフィールド等様々な場面で活用されています

(宮城北部森林管理署)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(平成27年1月)

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	9,000	10,800	—
		16~30	10,800	9,000	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	—	10,080
	4.00	10~13直曲	9,000	10,080	10,800	10,800	10,800	10,800
		14~18	10,080	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800
		20~28	—	10,800	10,800	10,080	—	—
		30上	—	11,520	11,520	11,520	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,800	—	—	—	10,800	10,800
		30上	10,800	—	—	—	11,520	11,520
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	

資料: 県森林組合連合会

概況

素材動向

各センターは昨年から材不足が続いており、各製材所は在庫確保に苦慮しているが、価格は昨年12月から4.00m小丸太を中心に値下がり傾向が続いている。中目材以上は横這いで推移しており、今後も大きな変動はないと思われる。

(宮城県森林組合連合会)

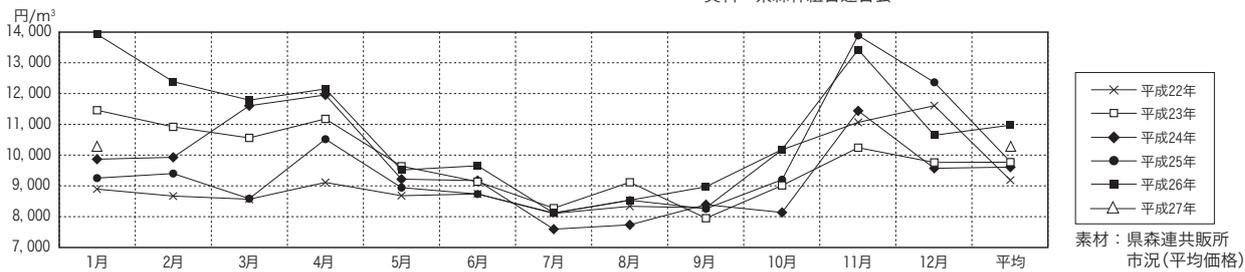


図1 素材価格の動き

素材: 県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882	835	1,004
平成25年	989	918	890	814	827	730	730	802	840	880	903	1,009
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144											

資料: 仙台中央卸売市場

概況

- 平成24年分県産平均価格=811円/kg
- 平成25年分県産平均価格=861円/kg
- 平成26年分県産平均価格=924円/kg
- 平成24年は、原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等にもない価格は下落したが、平成25年から持ち直し傾向となり、平成26年次は対前年比+63円と震災前を上回る価格にまで回復している。
- 平成26年次の県産しいたけの入荷量は443.5tであり、前年から27.5t増加した。
- 平成26年次の県産しいたけの市場占有率は75%であり、前年から11ポイント増加した。

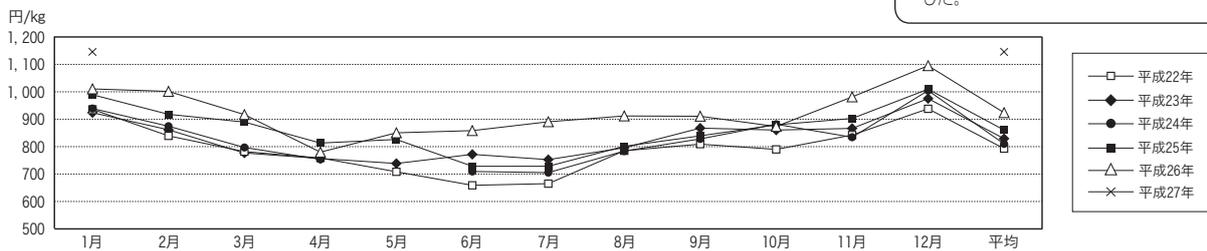


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(平成26年12月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成26年12月(戸)	1,733	1,224	509	70.6
平成25年12月(戸)	2,840	1,824	1,016	64.2
前年同月比(%)	61.0	67.1	50.1	—
平成26年1月~26年12月(戸)	26,039	15,248	10,791	58.6
平成25年1月~25年12月(戸)	24,163	16,092	8,071	66.6
前年同期比(%)	107.8	94.8	133.7	—

資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

新設着工数、木造戸数、非木造戸数とも対前年同月比較で減少している。

1月から12月の累計では対前年比で総数は増えているが、木造戸数は減少している。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～



自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL (0224) 58-1100 FAX (0224) 58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小山 松夫
理事 佐々木 市夫
監事 阿部 貢三
監事 小澤 幸三

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 佐藤 豊彦

宮城県木材需要拡大協議会

会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター

会長 佐藤 豊彦

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 尾花 健喜智
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail : sasakimi@proof.ocn.ne.jp

森林は大切な資源です
森林整備を通して

美しい森林を未来に伝えます



一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
E-mail : miya-rin@violin.ocn.ne.jp <http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/>

地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成，林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施，就業相談会の開催，林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

公益財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL/FAX 022-217-4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp
U R L http://www.tutuikoki.co.jp

緑の募金 にご協力ください
今植えた 小さなその芽が 大きな未来 (平成27年 国土緑化運動標語)

緑の募金
森が育てる みんなの心

事務所、店舗等カウンターへの「緑の募金箱」の設置

2015年 緑の募金 キャンペーン

春期募金期間 4月1日～5月31日 **秋期募金期間** 9月1日～10月31日

公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、
森林の公益性発揮を目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166

東和木材センター 0220-45-2240

大衡総合センター 022-345-2205

津山木材センター 0225-68-3038

岩出山木材センター 0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は

ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

◎山林用苗木生産、海岸防災林復旧事業用抵抗性クロマツ苗木生産

宮城県農林種苗農業協同組合

組合長 太田清蔵

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022)222-3661 FAX (022)222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 平成27年度の購読申込受付中!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501

FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号

編集協力 宮城県農林水産部林業振興課 ☎022-301-7501